

花みづき

第28号 / 2014.4.1
白梅学園大学・短期大学図書館
小平市小川町1-830 TEL042-346-5626

つたない読書体験と、 図書館の価値を考える

副学長・子ども学部 教授 近藤 幹生



子どもの頃、私は、ほとんど本を読まなかった。毎日、川や山で遊び呆けていたというのが、正直な説明になるかもしれない。その方が断然楽しかったからだろう。本を読まなかった理由は、もう一つくらいあるように思う。それは、文字を読むということ自体に、抵抗感があったからだ。小学校2年生頃の国語の授業で、指名されて教科書を読んだとき、「お金」という箇所を、「おかね」ではなく「おきん」と読んで、教室中から笑い声がおこった。以来、自分は引きこもりのような状態になり、人と会話しようとする、ことばがつかえてしまう、いわば吃音状態にもなった。小学校高学年の頃まで、そんな気持ちで吹っ切れない自分があった。

それから5～6年後、高校時代の友人の影響で、はじめて、本を読むことの魅力を発見したのである。高校2年から3年になる頃であった。彼は、いつも文庫本を立ち読みしていた。私は、本当はもっと彼と話したいのに、「いつも本を開いているけれど、何が、そんなにおもしろいのか？」と問いつめた。翌日、彼は「だまされたと思って、これを最後まで読め」と1冊の文庫本を貸してくれた。『二十四の瞳』(壺井栄)であった。ほとんど眠らずに、2日間くらいで読み切った。「なぜ、いままで、こんな世界を知らないで来たのか」と思った。それ以来、彼のガイダンスに従い、一人の時は、本を開くようになった。当時、読み始めたもので記憶しているのは、『ビルマの豎琴』『走れメロス』『金閣寺』『潮騒』『坊っちゃん』『伊豆の踊子』『雪国』『次郎物語』『橋のない川』『夜明け前』『人間の条件』『大地』等である。二人になる時は、恋愛論？(実は片想いの相談)ばかりし

ていた。そんな時間の費やし方をしていたので、仲よく大学受験に失敗してしまった。40年以上前の、彼との出会いが、本の世界、読書の魅力へ導いたことに、いまでも感謝している。

社会人となってからは、仕事に関する本しか読まなくなった面がある。ところが、最近になって、かつてのように読みたくなり、長編にチャレンジしはじめた。きっかけは、地元の図書館での展示・紹介コーナーを目にしたからだ。出会った書物は、『二十四の瞳』と同様に「なぜ、この世界を知らなかったか」という新鮮な感情をともなっているように思える。たとえば『パリ燃ゆ』(大佛次郎)は、フランスのパリコミューンの歴史を、手に取るように描いていて、2週間くらい、興奮しながら読みふけた。若い時期に、もっと世界史を学んでおけば、さらに深く理解できたと思う。『源氏物語』(瀬戸内寂聴、口語訳)を通読したのも、最近の初体験である。

つたない経験からだが、図書館は、誰でも、どの時点でも、視野を広げる入口だと思う。1冊の書物が、人生を左右するくらいの価値にもつながる。

本学の図書館には、専門分野(保育学)の研究でも、文献・情報検索等でお世話になっている。白梅学園70年史を踏まえ、図書館の更なる充実をねがう。今日では、ICT(情報通信技術)を駆使し、時代、文化、国境の違いを越え、内外の学問的業績にも近づくことが可能になった。貴重な扉をたたくのは、利用する一人ひとりではないだろうか。図書館の価値を一緒に考えていきたい。



浦辺文庫—まぼろしの一冊

子ども学部 家族・地域支援学科 教授
森山 千賀子

筆者が白梅学園短期大学(以下、大学)に赴任したのは、2001年である。その頃からホームヘルパー(家庭奉仕員)の成立過程に関心を持ち、大学図書館で蔵書検索をはじめたところ、浦辺文庫に出会った。その時は、戦前からの保育、児童福祉の実践家であり研究者である浦辺史(うらべひろし)先生の文庫が大学図書館にあることに先ずは驚き、次に下記の文献が検索で引っかかったことに驚いたことを覚えている。それは、アメリカ政府の発行した小冊子である「Homemaker-Service :a method of child care」を、1952(昭和27)年当時は大阪市民生局児童課に勤めていた池川清(いけかわきよし)氏が、『家政婦サービスの概要』と訳し、大阪府の社会福祉主事資格認定講習会の教材として使用した小冊子であった。

なぜ、そこまで驚いたかということ、浦辺文庫が大学図書館にあるということよりも、むしろ高齢者福祉の専門家でホームヘルプサービス研究の草分け的存在の森幹郎(もりみきお)氏でさえ見たことがないという、わが国最初のホームヘルプサービスに関する文献であったからである。とはいえ、よくよく考えてみると、欧米のホームヘルプ制度は、「一般家庭の主婦が出産や病気のために、

家事等ができない時に供与するものとして始まった」¹のものであり、池川清氏も後に児童福祉の研究者となり実践家でもあるのだから、何かのきっかけで浦辺文庫に所収されてもおかしくはないと考えた。

そこで早速図書館に出向き小冊子を探したのであるが、いくら探しても見つけれない。データ上では所蔵されているため、図書館の職員も何度も丁寧に探してくださった。最後は、地下室の右手一番奥の未整理図書の一冊にあるかもということになり、籠もって探してみた。しかし、まぼろしの一冊は、結局見つけ出すことができなかった。

ところで、浦辺文庫は大学図書館内にコーナーが置かれているわけではない。雑誌は年代ごとに製本され、書物は各ジャンルの棚に所収されている。見分けるとしたら書物に貼られた浦辺文庫のシールである²。浦辺史先生は2002年に97歳で他界された。筆者はその頃に小冊子を探していたのであるが、物色中に会った保育・福祉の先人たちの功績は圧巻であった。その努力が崩れないためにも、浦辺文庫に目をとめて頂きたい。

¹ 森幹郎著(1974)『ホームヘルパー』財団法人日本生命済生会19頁

² 浦辺文庫の紹介は、『花みづき 第3号』(1994.10.1発行)に掲載されている。

図書館注：『家政婦サービスの概要』の現物を再検索してみましたが、残念ながら2014年2月現在も“まぼろし”のままです。

読書マラソンコメント大賞

子ども学科3年 生協学生委員会 plum* 所属
西崎 彩菜

皆さんは生協学生委員会 plum* が推進している読書マラソンというのを知っていますか? 読書マラソンというのは、生協が行っている「4年間(大学在学中)に本を100冊以上読もう!」を目標にみんなで読書力をつけようという企画です。一年中コメントは受け付けていますが、年に一回朝日新聞社協力のもとに行われる全国のコメントの中から優秀なコメントを選ぶ「読書マラソンコメント大賞」に合わせて、白梅学園大学・短期大学でも独自にコメント大賞を決めようとエントリー期間2013年6月10日から10月12日、表彰式10月20日の日程で企画を実施しました。

白梅独自のコメント大賞を実施するにあたりコメント数増加を目指し、生協の店舗にポスター

を貼ったり、“映画化特集”のコーナーを設けるとともに、図書館にもポスターを貼っていただき、白梅生の好みに合わせてカウンター横に“児童文学コーナー”も設けていただきました。^{*1} 生協の店舗以外の場所でも宣伝していただけるということで認知度アップにつながったと思います。



※1 写真：カウンター横の様子(2013年10月)

漫画から広がる世界

保育科 講師 長井 覚子

授業や研究に関連する文献を読むことを除くと、「小説を読む」という王道の読書…よりも、実は、漫画の方が好きです。歴史好きだったこともあり、小学生のときには、よく漫画『日本の歴史』や『世界の歴史』を図書館で借りて読んだものでした。

私にとって漫画は、娯楽だけではなくて、活字を読んだり、作品を味わったり、歴史そのものを考えたりするきっかけにもなります。



吉川英治の『三国志』は、横山光輝の漫画『三国志』が入り口でしたが、漫画とはまた違った魅力に惹かれ、表紙がちぎれるまで読んだ思い出があります。渡辺多恵子の漫画『風光る』からは、司馬遼太郎の『燃えよ剣』や浅田次郎の『壬生義士伝』など新選組関連の小説を読み始め、「敗者の歴史」「勝てば官軍」という歴史の見方に触れました。このことは、歴史を記述するスタンスや、歴史とは何か、といった学問的関心や研究上の課題ともつながっていきました。

その他、古代エジプトを舞台にした細川智栄子の『王家の紋章』、持統天皇の生涯を描いた里中満知子の『天上の虹』、大正期を舞台としたラブコメディである大和和紀の『はいからさんが通る』等、漫画をきっかけにそれぞれの時代に興味をもちました。特に近現代への興味は、近現代文学への興味に…めぐりめぐって今は三島由紀夫を愛読しています。大和は源氏物語を漫画化した『あさきゆめみし』も執筆しています。数年前、くずし字が読めるようになりたいと思い、とある勉強会を紹介していただいたのですが、そこでテキストとしていたのは『源氏物語』でした。『あさきゆめみし』や、その他の漫画版源氏物語を何度も何度も読んだ経験は、解釈の助けとなるだけでなく、物語そのものを楽しみ、味わうことにつながりました。

ここに挙げたものは、歴史上の人物を取り上げたり、特定の時代を扱った漫画ばかりでしたが、刺激を受けた作品はこの他にもたくさんあります。一冊の漫画から、その先に広がる大きな世界。これからも行きつ戻りつしながら、楽しんでいきたいと思えます。



また、2013年度は前回設けた最優秀賞・優秀賞に加え、図書館長である久保木壽子先生にご協力いただき、図書館長賞を設けることもできました。表彰式は白梅祭二日目の後夜祭にて行いました。最終的に4名のエントリーがあり、最優秀賞1名、優秀賞2名、図書館長賞1名を決定し、図書カードと粗品をプレゼントしました。後夜祭での表彰式は2013年度初の試みだったのですが、後夜祭参加の学生も盛り上げて下さり無事に終えることができました。

2013年度は図書館の方にも協力していただいたおかげで学生に対しても読書マラソンコメント大賞について知っていただく機会が増えました。今後、もっとエントリー数が増えていくように生協学生委員会plum*も頑張って活動していきたいと思えます。これを読み、読書マラソンに興味を持った方は生協の店舗で職員さんに声をかけてみてくださいね！

図書館からのお知らせ

白梅学園大学 短期大学 図書館
Shiraume Gakuen University & College Library

お知らせ 利用案内 蔵書検索 資料の探し方 白梅における研究 図書館蔵 各種申込一覧 外部情報源

蔵書検索
とよかん Q & A
文献複写 申込はこちら
電子ジャーナル
電子書籍 まとめて検索
Cinii

資料を探す
白梅の所蔵を探す
詳細検索
まとめて検索 (白梅+外部 統合情報サービス) ※学内向け
あいまい 〇 限定
学外からは「学外アクセスID」が必要です。 IDの申込 学外アクセス

2月
日 月 火 水 木 金 土
2 3 4 5 6 7 8
9 10 11 12 13 14 15
16 17 18 19 20 21 22
23 24 25 26 27 28
休館日

2013年11月より、電子書籍、検索サービス「まとめて検索」を開始しました。

詳しくは図書館ホームページ

(<http://libwww.shiraume.ac.jp>) をご覧下さい。

自由に広がる

2014年3月子ども学科卒業生 佐藤 朋子

私は絵本が好きな子どもでした。特に、読んでもらうことが好きで、気に入った絵本は「もいっかい。もいっかい！」とせがみ、繰り返し読んでもらいました。ところが、字の多い本を読む機会がぐっと増える小学校に上がると、私は本に対して苦手意識を持つようになりました。字の多い本になかなか馴染めなかったのです。小学校の朝読書週間では、本を忘れることもしばしば。難しそうな本には触らない。先生からは、指導される子どもでした。それでも相変わらず絵本は大好きで、小学校以降も、人と比べればスローペースに、自分が好きになれる本を読んでいきました。

そんな気ままな私は、高校3年生の春『子どもへのまなざし (著：佐々木正美)』と出会います。字の多い厚さ3cmの本です。「子どもに携わりたい。白梅に行きたい。」と話した時、塾の先生がこの本をくださいました。本を手に帰宅したその日、それまで自分の人生だけを頼りに「子どもを育てることのきらめき」を感じていた私に、本の一文一文が“それでいいんだ”と言ってくれているようで、背中を押されました。そして私は自信を持ち、5年前の秋、受験票と筆箱と、1冊の本を手にこの学校の入試を受けたのでした。

振り返ればいつだって、私は本を自由に選んできています。『さる・るるる』『よかったねネット

くん』『ぼくを探しに』『ぞくぞく村』『サザエさん』『窓ぎわのトットちゃん』『ぼくの見た戦争』『キトキトの魚』『子どもへのまなざし』などなど。どれも好きになった本、縁があった本です。世界はゆっくりゆっくり広がりました。

そのことに、私は幸せを感じます。いつでもそばに数多くの本があり、好きだ嫌いだと言える。誰かが「これはどう？」と差し出してくれる。本を通して著者に、自分に出会える。そして、気に入った本はいつまでも大切にできる。本と私は、自由な関係でした。大学卒業を迎えた今、私は22歳の大人として、そして子どもと未来を育む保育者として、このやさしく幸せな本との関係を守っていきたいと思います。世界中の人が自由に本を手に行ける未来を目指して。



図書館注：写真は、佐藤さんが所属した林薫ゼミと東京家政学院大学・酒井ゼミの絵本共同調査の様子です。(2013年6月11日 図書館内にて実施)

●●●図書・文庫貸出ベスト 10●●● (2013 / 1 / 1 ~ 2013 / 12 / 31)

順位	回数	書名
1位	33回	施設で育った子どもたちの語り
2位	25回	子どもが語る施設の暮らし2
3位	21回	どうぞのいす
4位	20回	もう施設には帰らない [1] 知的障害のある21人の声
4位	20回	はらぺこあおむし 改訂新版
6位	16回	虐待を受けた子どもの回復と育ちを支える援助
7位	15回	施設で育った子どもたちの居場所 「日向ぼっこ」と社会的養護
8位	14回	いいんだよ、そのまま
9位	13回	世代間交流学の創造 無縁社会から多世代間交流型社会実現のために
9位	13回	つなげよう 発達障害のある子どもたちとともに私たちができること

上位は課題図書中心となりました。絵本のランクインは「どうぞのいす」「はらぺこあおむし」。ランク外ですが「そらめくくん」シリーズも人気でした。

●●●ビデオ・DVD 閲覧ベスト 10●●● (2013 / 1 / 1 ~ 2013 / 12 / 31)

順位	回数	書名
1位	69回	モンスターズ・インク
2位	64回	リトル・マーメイド ウォルト・ディズニー名作ビデオコレクション
2位	64回	美女と野獣 Walt disney classics
4位	50回	トイストーリー3
5位	38回	ハウルの動く城 ジブリがいっぱいCOLLECTION
6位	37回	塔の上のラプンツェル Disney DVD
7位	29回	着信アリ
7位	29回	リトル・マーメイド2
9位	28回	耳をすませば ジブリがいっぱいCOLLECTION
9位	28回	トイストーリー

「リトル・マーメイド」などのディズニー作品、「ハウルの動く城」などのジブリ作品が人気でした。ランク外ですが、課題資料の「保育士になるためのつまずきのある子への保育」も多数の利用がありました。